

もくじ	
P 1	第1回研修会開催
P 2	ふるさとの小動物「かたつむり」 「生物多様性基本法」の制定!
P 3	活動だより いきものみつけ
P 4	イベント情報 お知らせ

## 第1回研修会開催

本年度第1回目の研修会では、「観察記録のとり方」についての講義と「陸生貝類（カタツムリ）」の野外観察を行いました。

### ◇ 講義

**（観察記録のとり方） 山口大学名誉教授 山岡 郁雄先生**

観察記録はとり続けることが大切です。そのため、観察場所は日々通いやすい身近なところを選ぶとよいことを説明されました。

記録方法として、カレンダー形式を紹介されました。

先生自身も自宅近くの堤を観察フィールドとして通い、記録を取っていることを紹介。「まずは1種類の生物に注目をし、記録を取り始める。何回か通ううちに、別の生きものにも目が留まる。これもカレンダーに記録する。翌年はカレンダーから抜けている記録（記録を取り始める以前に行われた出来事。例えば、オタマジャクシとして観察を始めたカエルの産卵時等）を見つけ、前後の記録から時期を考察して観察に出る。このようにして、観察の対象が増加し、記録はどんどん厚みを増していく。記録は、文章だけでなく、周りの景色も含めて写真を撮るなどする。」堤の中のどのあたりに何がいるのか、また水中写真も撮り状況を記録に残すことを教えていただきました。

**（自然観察から調査研究へ） 山口県立山口博物館 田中 浩先生**

調査計画の立案（調査の目的・調査方法）、調査の実施（結果・考察）、公表（報告書・論文）、フィードバック（保護・保全）についての説明を受けました。

「まず、自分はどんなことが知りたいのか、どんな方法で調査をするかを設定するなどを書いてまとめてみる。調査は経験を積むと楽になるし試行錯誤が必要である。また写真を撮ることも必要である。特に調査研究したことを公表することの意義について、公表されて初めてその重要性が伝わり他の地域でも調査研究が始まる。それにより保護の輪も広がっていく」ことを学びました。

**◇ 陸生貝類（カタツムリ）観察会 上関町立上関中学校 増野 和幸先生**

今回は、土の中や落ち葉の下、石灰岩等を探しました。雨降りの絶好の天気のはずでしたが、梅雨時期には気温が低く、カタツムリの好きなジメジメムシムシとはならなかったこともあり、探すのは大変でした。

コケのついたガードレールにグニャグニャの線があるのは、カタツムリがコケを食べながら歩いた跡。カタツムリのフンの色は食べ物の色であるそうなので、緑のコケを食べたカタツムリは緑のフンをしたことでしょう。

「秋吉台の草原上に生息しているカタツムリは、石灰岩の隙間や地面の中、木の根元にもぐりこむことで山焼きの火から逃れている。山焼きをするという行為により草丈が調節されカタツムリの生息条件にあった湿度が保たれる等、好条件を作り上げている。このように、人の手が入ることにより守られる自然がある」という一例を説明されました。



さて、観察会で見つけたカタツムリは室内において同定作業をしました。全員で11種類を観察することができ、秋吉台で観察できるカタツムリの約半分を観察できたこととなります。ヤマタニシ、アツブタガイ、キュウシュウシロマイマイ、カワモトギセル、コベソマイマイ等。カタツムリは身近な生きものですが、個体数が少ないものや限られた範囲に生息するものもあることから、生息できる場所の環境保全は重要です。

観察を終えたカタツムリは、元の場所に戻しました。



平成20年6月15日（日）

会場：秋吉台エコ・ミュージアム

参加者：21名



紫陽花の花に、「かたつむり」が似合う季節がやってきました。薄暗くて湿気を好むかたつむりたちは、私たち人間が求める快適な生活空間とは、ある意味相容れないところがあります。こうした点にも、身近な所で姿を見かけなくなった理由があるのかもしれませんが。かつては、誰もが幼かった頃、一度や二度は手のひらに載せた経験があったものです。

私はあることがきっかけで、この時代遅れ(?)のかたつむりたちに魅せられて、30年近くになります。かたつむりと言っても、大きさ・形・色など、とてもバラエティに富んでいます。山口県内にも100種近くが見られます。全国には約800種、世界には2万種ほどがいるとされています。フランスのエスカルゴ料理のように、日本

では食用にこそされませんが、人との関わりは古く、呪いや御守りにされたりするなど、さまざまなつながりを持っています。調べれば調べるほど、新しいことがわかってきます。

そもそもかたつむりは「陸の貝」と呼ばれ、サザエやアサリと同じ「海の貝」の仲間です。そして、今の季節、美しく夜空を飛び交うゲンジボタルやヘイケボタルの幼虫、草むらに幻想的な光の河をつくるヒメボタルの幼虫は、それぞれ淡水性の貝や陸性の小さな巻貝を食べて成長するので、殻を背負っていないナメクジは、多くの人嫌がりますが、やはりかたつむりの仲間です。

住み辛くなったかたつむりたちも、ちょっと注意して観察すると、意外にも家の周囲や近くにある林の落ち葉の下でも観察できるものです。

(HP) <http://www.006.upp.so-net.ne.jp/maimai/> かたつむりの館



## 「生物多様性基本法」の制定!

生物の多様性の保全及び持続可能な利用についての基本原則を明らかにしてその方向性を示し、関連する施策を総合的かつ計画的に推進するため、平成20年5月28日に制定され、6月6日に公布・施行されました。

### ☆目的は・・・

豊かな生物多様性の保全、自然と共生する社会の実現、地球環境保全への寄与

### ☆基本原則は・・・

- ・ 野生生物の種の保全、多様な自然環境を地域の自然的社会的条件に応じて保全
- ・ 生物多様性への影響を回避又は最小となるよう自然資源を持続可能な方法で利用
- ・ 科学的な知見に基づく予防的順応的な取組、長期的な観点からの生態系等の保全と再生、地球温暖化対策との連携

### ☆生物多様性戦略

- ・ 国は、環境基本計画を基本として、生物多様性国家戦略を策定
- ・ 都道府県及び市町村は、単独又は共同で生物多様性地域戦略の策定に努める

### ☆基本施策として・・・

#### ① 保全に重点を置いた施策

地域の生物多様性の保全、野生生物の種の多様性の保全等、外来生物等による被害の防止

#### ② 持続可能な利用に重点を置いた施策

国土及び自然資源の適切な利用等の推進、遺伝子など生物資源の適正な利用の推進、生物多様性に配慮した事業活動の促進

#### ③ 共通する施策

地球温暖化の防止等に資する施策の推進、多様な主体の連携・協働、民意の反映及び自発的な活動の促進、基礎的な調査等の推進、試験研究の充実など科学技術の振興、教育、人材育成など国民の理解の増進、事業計画の立案段階等での環境影響評価の推進、国際的な連携の確保及び国際協力の推進

# 活動だより

八代のツルを愛する会  
徳本 仁さんより



八代のナベツルは一昨年の渡来数が9羽、昨年が7羽となり八代に飛来しなくなるのでは無いかと危惧されています。今「八代のツルを愛する会」では、何とかツルにとって良い環境を取り戻そうと懸命です。

春から秋にかけて給餌田でツルの餌となるイネ科植物を育てます。減農薬でツルに優しい餌を収穫します。わら囊（ふくろ）を設置したり、湿地の餌場を作ったり、周囲の草刈りをしたりツルの生息環境を整えます。

10月の第1土曜日は恒例のネグラ整備の日になっており、県下各地・県外からも参加者があり、その人数は200人を超えます。昨年の整備は10カ所あるネグラの内の6カ所を行い、主な作業は草刈り、クワで整地、刈った草をガンゼキで集める等を行いました。また、鶴のエサにするイネの収穫作業もありました。ツルが気持ちよく過ごせる場所になるようにと思いながらの作業でした。12月の第1日曜日はツルの慰霊祭を行い、今までに八代で客死したツルの冥福を祈ると共に今年来たツルの安全祈願をします。

国の特別天然記念物・県鳥でもあるナベツルの本州唯一の渡来地として守り続けたい。

☆ネグラ整備実施予定日（参加希望者は申し込みをお願いします）

日 時：平成20年10月 4日(土) 8時 ~ 12時

集合場所：鶴いこいの里交流センター

服装・持ち物：動きやすい服装、長靴、ガンゼキ、草刈り機、鎌等

※八代のツルを愛する会（鶴いこいの里交流センター TEL 0833-92-0003）



## いきものみっけ

～「いきものみっけ」（市民参加の温暖化影響調べ）プロジェクト ([www.mikke.go.jp](http://www.mikke.go.jp))～

環境省生物多様性センターが、日本国内在住の方を対象に、身近な自然や生きものへ目を向け、すぐそこで起きている自然の変化に関心をもってもらおうと企画、7月1日から開始されました。

調査内容は一般参加者向けと自然愛好家（専門的な知識やスキルのある人、団体）向けの2種類。

	夏	秋	冬	春
一般向け	ミンミンゼミの鳴き声 が聞こえた日	ヒガンバナの開花 日	初氷の観察日	ウグイスの初鳴き 日
	ツクツクボウシの鳴 き声 が聞こえた日	イチョウの黄葉日		フキノトウの初見 日
自然愛好家向け	クマゼミの鳴き声 が 聞こえた日	ススキの出穂日	マガンの初見日	モンシロチョウの 初見日
			ジョウビタキの初 見日	

集まった情報は、webサイト上で発信され、過去の情報と比較することで、温暖化によるいきものへの影響を示されます。

参加方法は、webサイト ([www.mikke.go.jp](http://www.mikke.go.jp)) または、FAX、郵送で。FAXや郵送の場合は、ちらし（山口県セミナーパーク 環境学習推進センター 学習コーナーにも設置しています）に必要事項を記載し、参加することとなります。

参加の詳細は、全国地球温暖化防止活動推進センター内「いきものみっけ」事務局まで

（〒106-0041 東京都港区麻布台 1-11-9 ダヴィンチ神谷町 TEL：03-3568-4131）





自然環境学習拠点施設の行事予定です。

イベントによっては申し込み、参加費が必要なものがあります。詳細は各施設にお問い合わせください。

	秋吉台エコ・ミュージアム TEL 08396-2-2622	きらら浜自然観察公園 TEL 0836-66-2030	つのしま自然館 TEL 083-786-0430
8月	10日(日) コウモリの観察 (声を聞こう)	3日(日) 干潟の生きもの観察会 10日(日) 楽しいバードウォッチング～真夏の鳥の暮らし 17日(日) 夏休み工作教室 23日(土) ツバメのねぐら入り観察会～ヨシ原で眠る大群を見よう 30日(土) 天体観察教室	
9月	20日(日) 秋吉台草原ふれあいプロジェクト ※ 6月に草刈を行った場所にできたお花畑を観察します	13日(土) 中秋の名月と虫の音楽鑑賞会 14日(日) 楽しいバードウォッチング入門	
10月	19日(日) 秋吉台の化石 26日(日) エコツアー 洞窟清掃活動	11日(土) ショウドウトツバメのねぐら入り観察会 12日(日) 楽しいバードウォッチング	25日(土) 秋の自然観察会 「秋風の中で季節の移りを見つめよう！」
11月	9日(日) 青景銀山を訪ねて	9日(日) 楽しいバードウォッチング入門 23日(日) 里山の自然探訪	29日(土) 夜の自然観察会 「満天にきらめく星々と語らおう！」



## 研修会についてのお知らせ

平成20年度は3回の研修会を実施します。

- ・予定日： 第2回 10月11日(土)、第3回 11月15日(土)
- ・内容： 動植物の観察の仕方や記録のとり方等を中心に講義及び観察会を実施

※ 受講に際しては、申し訳ありませんが、初回受講者を優先とさせていただきます。

## 山口県からのお知らせ

支援員の皆様に、Eメールで自然環境の保全活動や講演会等について情報提供をしています。

まだEメールアドレスを登録されていない方は、自然保護課までご連絡ください。

(連絡先) 〒753-8501 山口市滝町1-1 山口県環境生活部自然保護課 担当：林

電話：083-933-3050 FAX：083-933-3069

Eメール：[a15600@pref.yamaguchi.lg.jp](mailto:a15600@pref.yamaguchi.lg.jp)

発行元：(財)山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター

〒754-0893 山口市秋穂二島1062 (山口県セミナーパーク内)

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>

